









地域支援事業

自分らしく暮らす力を支える

瀬野川学園相談支援事業所 作田 明子

病気のため、やむなく片足切断の手術を控えた男性がいました。大きな決断に至るまでの苦しさは計り知れません。それでもその方は、入院までの間に退院後の暮らしを思い描き、自宅の玄関から外へ出るためのスロープや松葉づえを作りあげていました。片足になった後の生活や外出を考え、試行錯誤しながらこれらの暮らしに必要なものを探していたようでした。

手術後、病院では安全確保や物品管理の理由から車いすは手元に置かれず、必要な時にナースコールで知らせて持ってきてもらう形でした。車いすがなければベッドから離れることができないのに、移動のたびにその都度呼ばなければならぬ。その状況に、本人は強い息苦しさを感じているようでした。病室から一歩外に出たい、窓辺で景色を見たい、せめてトイレだけは自分の行きたい時に行きたい。こうした願いは回復への意欲を支える力にもなります。安全のためとはいえ「動きたい」と

思った時に動けないことは、意欲や尊厳を静かに削ってしまうのではなにか；そんな懸念がありました。そこで状態と希望を病院側に伝え、合理的配慮の視点も踏まえて車いすを確保できるよう調整をお願いしました。

その結果、車いすがベッド脇に置かれるようになり、その方の行動範囲は少しずつ広がりました。周囲の視線に傷つくこともあったようですが、「慣れたよ」と言って病院内を出かける姿は尊厳そのものでした。

近年、障害福祉の現場では、本人が自分で考え、決めたことを実現できるように、情報や環境、関わり方を整える支援が求められています。相談支援では、私たちの見立てを「正解」にしないことが出発点です。障害の種別や年齢を問わず、本人の思いを中心に、家族や関係者の声にも耳を傾けながら、自分らしく暮らす力を支えていければと思います。

ひなまつり会

柏学園 田代 紗季

三月三日に柏学園ではひなまつり会が行われました。いつものようにバスから降りて教室までらせん階段を上っていると、ホールに飾られた『ひなまつりかい』の文字や大きな白い紙を見つければ、「今日はひなまつりだね！」「なにをするのかな？」とワクワクしているお子さんもいらっしやいました。

朝の準備を終えてホールに集まり、いよいよひなまつり会がスタート。しかしお雛さまの姿が見えず、「まだ来てないみたい」とお内裏さまが困っている、春の海々の優雅な曲ともならせん階段の上から白塗りの綺麗なお雛さまが登場。お雛さまとのふれあいタイムでは、一緒に写真を撮ったり握手をしたり、近くで見るとちよつと圧倒されちゃうお子さんもいらつしやったりと反応は様々でした。

無事お内裏さまとお雛さまが合流したところで、楽しいリトミックの時間が始まりました。今回は、できるかな？あたまからつまさきまでという曲に合わせて、いろんな動物になりきって身体を動かしました。この日のために各クラスで練習をしてもらっていたので、本番もたくさん

お子さんがお手本役のお内裏さまの動きを見て上手に真似っこしてくれていました。

リトミックの後には大きなアンパンマンの福笑いをしました。お雛さまが目隠しをして、みんなで協力しながらお雛さまに目や鼻などのパーツを貼る場所を教えてあげました。眉毛が上下逆さになっていたり、間違えて近くの大人にべたべたと貼ってしまったりと、「ちがう！ちがう！」と盛り上がりつつありました。お顔ができたなら、最後に着物や帽子も着せてあげて完成！みんなで作った福笑いの前で記念撮影もしました。

ひなまつり会の最後はうれしいひなまつりのペープサートでしつとりと締めくくられました。大きなひな壇にお雛さまやお内裏さま、五人囃子たちが順番に飾られていき、素敵なひな壇ができました。

お子さんたちは教室に戻った後、ちらし寿司や雛あられなどひなまつりのごちそうを楽しんだり、「お雛さまって〇〇先生だった？」「声が似てたよ」とお雛さまの正体に興味津々だったり、ひなまつり会の余韻を楽しみました。





